第５回広島県経済財政会議　議事録

■　開催日時：　平成２５年１１月２５日（金）１４：００～１６：００
■　開催場所：　広島県庁北館２階　第１会議室
■　出席委員：（主宰）湯﨑　英彦　広島県知事
（委員）内田　和成　早稲田大学商学学術院教授
宇野　健司　株式会社大和総研産学連携室副部長
神原　勝成　一般財団法人ツネイシみらい財団代表理事
蔵田　和樹　株式会社広島銀行 専務取締役，広島商工会議所　副会頭
辻　　琢也　一橋大学大学院法学研究科教授
戸堂　康之　東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
吉田　正子　株式会社アンデルセン･パン生活文化研究所代表取締役社長
※吉川委員は欠席

（五十音順，敬称略）

■　議事要旨（委員の主な意見等）
議事　県政運営の基本方針２０１４（素案）について

議事　県政運営の基本方針２０１４（素案）について

○　結局，第二期湯﨑県政で何を目指すのか，何を変えるのか変えないのかが今一つすっきりしない。対外的には資料のようなきれいな絵で良いと思うが，知事としては一期でやり残したことをやるのか，それとも一期目の取組を継続するのか。そういった意思のようなものはこの素案のどこに入っているのか。

○　この資料にはそういった意思は入っていない。任期と年度が一致していないので，次の一年は一期流れの中で，仕上げの年と考えている。二期目は実質的にはその次の３年間と捉えている。そこで何を打ち出すかはまだ考えの途中で，全体がまとまっていないのが正直なところ。基本的にはチャレンジビジョンの流れの中で行きたいが，その中でも特に注力したいのは一つには教育。公教育，大学教育を大きく変える。それから，これまではターゲティング・ポリシーをやってきたが，力をかけてやらないといけない環境整備などのベースの部分や産学連携やイノベーションや起業の雰囲気づくり。後は，地方分権等になるかと考えている。

○　信任を得て当選したのだから，相当思い切って県政運営ができるのではないか。「君子豹変す」と思われるくらい，思い切ってやりたい道を進んでも良いのではないかと思っている。
　Ｐ６の「イノベーションが生まれる最適環境を創る」というのは大変良いが，四つの要素とさらにそれにぶらさがっている１３の項目があるが多すぎると思う。これをすべて覚えている人がいたら，それは仕事ができる人ではなく暇な人なのではないか。これを頭に入れて仕事をするというのは難しいだろう。もっとメリハリをつけるのが，企業経営の視点からはありうる姿。経済と人を中心に，という意味合いでストーリーにできるのではないか。広島県は経済力でもっている県だから，そこが弱くなると広島の力もないし魅力がなくなるから，そこを強くする。そのためには人が大事で，内外から呼び寄せられる環境整備もするし，来た人が広島でなら人材も育つ，結果として広島が豊かになってそこで暮らしている人も良い暮らしができる。説明する時に個別の施策を説明するよりは，広島はそういう県だということを住んでいる人も皆語れるようにすると良いのではないか。

○　プレゼンテーションというか，どのように仕立てて，外に出していくかはまた工夫したい。
　今，平行して事業を仕立てているところで，それはここには盛り込んでいないが，それについて

の質問でも良い。

○　イノベーションに必要な環境要素としてファミリー・フレンドリーが関係づけられているところに違和感を覚えている。「女性の働きやすさ日本一への挑戦」，「少子化危機突破対策」というのはイノベーションに寄与する部分は確かにあると思うが，なんでもかんでもイノベーションに結びつける必要はないのではないか。もともと私がファミリー・フレンドリーを提案した背景には，広島県は出生率の伸び率が全国一高いというのがある。それを考えると，どちらかと言えば「広島の強みや基盤を活かす」の方でファミリー・フレンドリーを語った方が自然なのではないか。「イノベーション」は広島の未来をどう創造していくかという話。「広島の強みや基盤を活かす」は，今ある良いところ良いものをブッシュアップしていくことで，今の県民に生活に関わる部分がたくさんあると思う。それを県民の方にわかりやすくアピールすることで，もっと県民が県政に関心を持ち，当事者意識を持って行動していく，県政に期待していくということにつながるのではないか。
　ブランド戦略に関してだが，「おしい！広島県」はもう終わったのか。ＨＰには出ていなかったようだが，引き続きあの路線なのか。

○　終わった訳ではない。今は仕込みをやっている。

○　「おしい！広島県」は賛否両論あったが，外からの注目を集めるという意味では非常に効果はあった。今後はもっと県民の興味をかき立てる，県民自身がその気になるようなキャンペーンをしてはどうか。ファミリー・フレンドリー・キャンペーンなど，自分たちも参加するし，外の人たちにも，「そういうところなら住んでみたい」と思わせる方向で考えるのが良いのではないか。外から人を呼ぶには，まずは今住んでいる人が楽しくて精神的にも豊かな生活をしているということが重要だと思う。県民の意識の問題というのは大きいと思うので，そこに対する何らかの働きかけがもっと必要ではないか。

○　ブランドについては，委員には，できれば別途，専門家としての意見をいただければと思うが，今進めているのは，広島の持っている資産から積み上げていって，そこからどういうものが紡ぎだせるか，それを四つぐらいのコンセプトにおさめてさらに統合するというように，ブランド戦略を整理しているところ。「おしい！」は観光キャンペーンとして展開したが，それとは違う世界で，公共財としての地域のイメージを長期にわたってどう打ち立てるかということ。その中で，暮らしやすいというのも，ファミリー・フレンドリーも入ってくると考えている。
　ファミリー・フレンドリーをイノベーションよりも強みに入れたらどうかという意見については，また考えたい。

○　全体としてよくまとまっており，方向性も正しいと思う。ただ，細部で尖ったもの，これだ，というものが，大きな四つの柱の中でいくつか出てこないと効いてはこないのではないか。この資料は要約版なので細部については詰めているのだろうが，内容は普通になっている。例えば教育，人づくりをとっても，会議で議論になったバカロレアとかインターナショナルスクールなどもないし，内容はありきたりというのが全体的な印象。
　細部について意見を言うと，Ｐ７～８の産学連携をさらに加速させる必要があるというのは方向性として正しいが，産学官連携を進める場合には大学改革とセットになる必要がある。なかなか大学，特に国立大には手が出せないと思うが，大学に改革を持ちかける，などができないと難しいのではないか。
　「世界と直結するビジネス支援」が特に加速させる必要があるテーマに入っていないのは非常に残念。産学連携だけでは，イノベーションが起きても，イノベーションの結果を発揮する場が無いわけだから，そこも強く考えていかないといけないと思う。「チャレンジビジョンの点検結果」を見ても，海外展開の支援はそれほど十分にできているとは思えない。連携協定も四川省に偏っており，幅広く行う必要がある。

多様な人材を集積するのは重要だが，多様性を阻む地域性があると難しいので，多様性を許容する文化をどう作っていくのかも重要。県民の方に意識を醸成するといったことも必要ではないか。

○　尖った部分はここには書いてないが，事業で出てくるので，また後で紹介する。大学改革も産学官連携とセットで考えている。尖った部分で何か紹介できないか。

○　産学連携については，お金も回らないと進まないのではないかということで，産業界と大学を資金面でも連動させる仕組みを，県がイニシアチブをとって進めて行きたいと考えている。
グローバル人材の育成では，グローバルリーダー育成に向けたプログラムを，県立広島中高において実施しようとしている。

○　バカロレア的なものをやるということ。以前この場で議論いただいたが，中高一貫には地域密着型と広島中高型とグローバルリーダー育成型があり，その三つともやろうとしている。世界的にもトップと言われる水準の中高一貫校を作りたいと思うが，いきなり作るというと皆がびっくりするので，まずは来年度からもう少しオープンにして検討していこうとしている。広島中高というのは中核的な位置づけになるがこれもやっていきたい。
産学連携の大学応援基金については，この会議での議論もあったが，大学の特定の研究ではなく，生活費に充てることができるような基金にしたい。作ること自体苦労すると思うが，それをテコに大学改革ということにも取り組んでいきたいと考えている。
これらがとんがったもので，先程委員から質問にあった次にやりたいことでもある。

○　是非，中小企業も含めた地元の企業との連携が強いような形で大学を作って欲しい。沖縄や秋田の事例は，地元との連携が乏しいものになっている。地元企業との連携の強い大学を設計して取り組めば，県内の理解も得られやすいのではないか。

○　全体的には皆さんの意見と同じような印象がある。理念としては，４７都道府県似たような仕事をしている中ではかなり工夫した打ち出し方をしていると思う。特に，イノベーションで全体を括って，「ダイナミックな事業環境」「多様な人材な集積」「ファミリー・フレンドリーな」「社会に密着する人材の教育」という四つの環境要素だけでいくというのは，理念としては工夫されている。国がアベノミクスの中で展開してきている，産業活性化や大学のグローバル化，子育て支援というのも，広島県で今まで議論してきた中で，先んじてやろうとしてきたことがかなりあり，そういう意味で今までの努力は評価してしかるべきだと思う。
だが，回を追うごとに資料は洗練されてきて，それなりにいい概念出しをして個別施策もあるが，全体としてはアピールしなくなってきた。前回ぐらいから，資料に注文をつけようと思って読んでも，割と無難で注文をつけづらい資料構成になってきた。理念としては間違ってないが，逆に，全体的には尖ったものがない。多分，知事の環境にも影響されていて，知事が当選を重ねるたびに，個人的に人気が高いと，政策で無理をしなくても，十分アピールできるというところがある。無理をしなくても，知事のパーソナリティと人気であとは具体的な施策しかないという展開になりがち。悪い意味でそういう風にならないように工夫する必要がある。
Ｐ１８に分野とイノベーションに必要な環境要素のマトリクス表があるが，縦軸は広島県なりの工夫がされているが，横軸の分野は割と普通だ。担当の思いとしては，これをマニアックにマトリクスを作って当てはめているのかもしれないか，そこまでする意味があるのかなと思う。多分，縦軸なら縦軸があってそこに個別の施策があるだけで十分ではないか。
むしろ欠けているのは，「ビジョン推進施策の点検結果」に施策の点検評価が示されているが，個別施策の事業単位の目標や進捗は示されているが，大きな政策ごとの評価がない。何をやって何が成果なのかを問われたときに，一言と一目標で括れるような構成になっていない。個別の施策ではカバーできているが，県民目線で見て，ダイナミックな事業環境でどんな施策をやっているのかを一言で表せる目標と事業点検をなるべく打ち出すようにする努力が必要なのではないか。「ファ

ミリー・フレンドリー」というのは良い言葉だが，一言で言うと広島の施策は何をやっているのかということが出てこない。

「日本一強い県庁を作る」という概念は，観方によっては尖った目標で印象に強い目標設定になりうると思うが，具体的な戦略は抽象的で月並みだ。では広島県が月並みなことだけをしているかと言えば，県としては思い切った人事評価をしていると思うし，定数削減を頑張っていることなどを，もう少しアピールしても良いのではないか。それが，資料からはなかなか出てこない。

もう少しイメージではっきり特徴的なものを特出しすることと併せて，特出しできない小さい施策に対して，これをやったらこの目標が達成したというように象徴的に思えるものをなるべく出してほしい。例えば，日本全体の動きを考えると，東京オリンピックが決まったことは大きい。東京は東京オリンピック中心，名古屋はリニア開通とトヨタの後継産業をどうやっていくかという大きい目標がある。大阪は混乱しているが，福岡はアジア圏の中でどうやっていくかといった，わかりやすいはっきりとしたビジョンがある。広島全体の経済活性化のビジョン，オリンピックに対抗する形で，地方の中枢として何をやっていくのかという，具体的なビジョンを打ち出す努力をしても良いのではないか。具体的にそれは何かと言われると出てこないが，是非，そこのところを工夫して欲しい。

○　「イノベーション」には，オリンピックやリニアのようなわかりやすさはない。「シリコンバレーになる」というならわかりやすいだろうが，そこまで言うと言い過ぎのような感じもする。少し検討したい。

○　「イノベーション」をはっきりと打ち出している県はあまりないので，良いと思う。むしろ「シリコンバレーになる」なんて，二番煎じを目指すような目標は言わない方が良い。

○　具体的なものがイメージできると良いとは思う。言葉の問題かもしれないが。

○　「イノベーション」という言葉が上を向き過ぎているのかもしれないが，スローガンとしては良いと思う。

○　以前，観光なので瀬戸内をどうこうという話があったが，「瀬戸内経済圏を確立する」という話はインパクトがあるのではないか。もうひとつは広島の強みはなにかというのをもう一回見つめ直して，自分たちでは十分気付いていないことでも，他からみると経済的な魅力，観光の魅力，暮らしの魅力というのがあると思うので，そこを深掘りして，広島単独で強みを打ち出すというアプローチもある。一度，ゼロベースで考えて，何が広島はできて，アピールするのかを考えるのも意味があるのではないか。個人的には瀬戸内を村上水軍宜しく牛耳るというのは，傍から見て面白いが，現実にできるかというと難しいのかもしれない。それだったら，広島県単独でできることを確実にすすめるのが良いのではないか。

○　観光面ではそうしていきたいが，実体経済全体を包含するとなかなか難しいだろうか。

○　以前話をしたかもしれないが，星野リゾートは，つぶれた旅館やホテルを再建しているが，これから再建するところに行って，「ここの強みは何か」と聞くと，どこでも温泉とか風光明媚だとか言う。日本全国どこにでもあるものを強みに思っていて相対的に競争力がなくなってつぶれている。青森のどこかでは，弱みだと思っていた方言を前面に出すことによって再建したという話がある。自分達からみると強みでも何でもないと思っているものも他のマーケットやユーザーからみると強みになることもあるので，そうやって各地を再建しているという話を星野さんから聞いたことがある。広島もきちんと押さえておくことが必要ではないか。

○　実はブランドの調査の中でかなり詳細に聞いている。外から見た広島の良さは，何でも近くにあ

るというコンパクトさだった。海もあれば山もあり，適度に都会だというところ。広島に赴任してきた人たちや，首都圏の人たちに意見を聞いたものをベースに県内の人に聞いている。何でもあるということは，逆に言えば，特徴はないということになる。だから，昔から言われているように広島はテストマーケティングの場所となっている。

○　調べたが，潜在的にあるが活用してなかったというようなものは必ずしも出てこなかったということか。

○　バランス良く色々なものがある，多様性があるというのが強みだが，特徴という特徴はない。イノベーションにしてもファミリー・フレンドリーにしても，今のコンピテンシーで勝負するのではなく，新しいコンピテンシーを作っていくという方向性で考えないといけないのかなと思う。

○　広島の強みで海があり山があり適当に都市機能がありというのはよく言われるが，足りないものとして，おもてなしの心，ホスピタリティーが足りないという話は良く聞く。そういう弱みをいかに強みに変えていくのが大事なのではないか。それはホスピタリティー産業の企業だけがやれば良いのではなく，町や村，県や市でも外からの人をおもてなししようという風土をつくることがこれからは非常に大事ではないか。

○　外の人だけではなく，広島県民か外の人かは判らないので，他人にやさしくしよう，ということを目指さないといけないと言っている。

○　宮島や平和公園があるが故に，放っておいても人が来るだろうと安住してしまって，呼んでくる努力が足りないのではないか。

○　Ｐ５の「イノベーションが生まれる最適環境を創る」という表現はとても良いと思う。
　Ｐ２９の「県庁の改革パッケージ」について言うと，「日本一強い県庁」になるためには，日本一強い県庁職員になる必要がある。そのためには県庁職員の意識改革が必要だ。意識改革とは仕事の優先順位を変えること。次に行動が変わる。成果が変わる。その意識改革をするのに，例えば，職場環境を近代的なものに変える。イノベーションはビジュアルから入らないと起こらない。意識改革のイノベーションは働きやすい職場環境を作って，そこで良い発想が生まれなければ人を変える。ビジュアルから意識改革をして行動に反映させ成果を変える。県庁は入ると何だか暗い。資料もスタンダードで変化が無い。お金を掛けて県庁を変えても良いのではないか。その分税収が上がるような施策に取り組む。
　Ｐ６の「ダイナミックな事業環境」に創業支援は，是非，中小零細企業の創業者を支援して欲しい。県が一緒に乗ってくれるという安心感で集まってくる。全部のリスクを取ってくれとは言わないが，部分的なリスクを分担して欲しい。大きな企業を誘致するというのはなかなかいっぺんにはできないので，中長期のビジョンの中で，何社起業し，何人の雇用につながったかというマイルストンも設定すべき。創業支援を是非お願いしたい。
　Ｐ１６の広島の強み，広島らしさという点で，「観光地ひろしま・瀬戸内 海の道構想の推進」では，海の道の７県連合の中で，是非，広島がプライオリティをもって取り組んで欲しい。そのためには，ＬＣＣの誘致や空港の民営化，大型客船の発着施設といったインフラ整備も是非，取り組んでもらいたい。
　一つ疑問なのは，Ｐ１２の「広島型生活モデル」は言葉きれいだが，具体的にはどういうことか。イメージがわかない。
　県庁職員が活性化，意識改革できるような環境整備をやってもらいたい。そのために税収を上げる。税収を上げるために創業支援をする。両建てでやってもらいたい。

○　「広島型生活モデル」は，あまり理念を言ってもダメなので，具体的に広島に移り住んで来た方

の暮らしをアピールしようというもの。尾道市で古い家を活用して広島で働こうという人を呼び込もうと計画している。そういう，市町と一緒に呼び込む施策に取り組んで，アピールしていこうとしているが，具体例の掘り起こしには苦戦している。

○　広島らしさというのは理解が難しい。広島型というのは山間部の暮らしなのか，それとも海なのか。

○　近接性，その両方があるというのを出そうとしている。

○　東京のようにコンクリートばかり，長野のように山ばかりというわけでもなく，スローライフだが都会的なものも近くにあるということ。仙台や札幌もあるとは思うが，適度に都会で自然もあり，心も豊かに暮らせるということを，東京に対して際立たせることができるのではないかと思っている。実際にそういう生活をしている人をピックアップして示すといのをイメージしている。

○　「日本一強い県庁」は違和感がある。県民が幸せになることが究極の目的なので，県庁が強くなることは手段でしかない。県庁職員の給料が。地方経済の問題は，県庁が職として望ましいということで，県庁に人材が集まってしまうことが一番の問題。民間が主体になり，民間に人材が集まるべき。むしろ給与は低くして民間に人材が流れる方が良いのではないか。逆に県庁の人が創業するのを支援する，官庁から起業家になるというのを，ぜひ創業した経験を持つ知事から，職員に道筋をつけてはどうか。

○　給与は別として，主役が県民であり，県の経済が活性化することに県が一定の役割を果たす，あるいは果たさないことによって活性化することもあるので，適切な働きかけをすることが重要。県庁自身が広島県を引っ張っていくことはあり得ない。いかにテコの原理で活性化できるかということを考えたい。

○　先ほど述べたのは極論だが，職員にインセンティブプランがないと，躍動感がない。

○　創業支援もお願いする。

○　Ｐ３４の定員管理目標で，一般行政部門はＨ２６年度目標で８０人減となっているが，若い人は採用するのだろうか。イノベーションや具体的なアイデアは若い人から出てくるので，積極的に若い人を採用しないといけないのではないかと感じた。

　創業支援の話があったが，金融機関が出してくれれば良いがなかなか難しい。県が旗を振り，融資の仕組みを作ってもらえるなら，地元の金融機関もお金を出しやすくなるので，ありがたい。まちづくり，まちおこしのアイデアはあるが，最終的にやれること，やれないことを決めるのには，金融機関のサポートがどれだけあるかで，事業になるものやスピード感も違ってくる。

　尾道の再生した空き家や商店街にベンチャー企業などのクリエイターを集めた支援をしようと思っているが，尾道市の助成制度は古民家再生も歴史的価値のある建物だけで，商店街に若いベンチャー企業向けにオフィス環境を整備しようとすると対象にならない。それから，広島にサテライトオフィスや起業する人を誘致する際のインセンティブがない。誘致の話をすると県や市は何を支援してくれるのかということは必ず聞かれるがインセンティブの内容によっては非常に手ごたえがあると感じている。海と山があって，コンパクトなまちの尾道や鞆には興味を示す人も多いので，その辺のサポートを県が考えてくれるなら，色々な人が興味を持ってくれる。

　海の道構想については，１兆円という金額もなくなっているし，小さくなっている気がして残念だ。観光は国内客ではなく，海外ではないか。それもヨーロッパやアメリカの富裕者向けに，１週間とか１０日間泊まれるような観光地にするためのＰＲをすれば，ターゲットとして面白いのではないか。

コツコツとやっているのはわかるが，もう少し観光という切り口で，もっと大きいビジョンなり目標なりを掲げてはどうか。

○　若い人の採用について補足説明はあるか。

○　定員削減については，辞めた人の半分くらいを新規で採用しているのが最近の傾向。例えば１８０人辞めたら１００人採るとかいう形でやっている。さらに以前はかなり絞っていた時期もあり，年齢構成がいびつになってきているので，十分な数の若手がとれているかといわれるとそうではないが，なるべく採用している。社会人採用の枠も設けて，年齢構成のいびつな部分は修正しようとしている。

○　県庁の職場環境を綺麗にというのは，部分的にでもやってはどうか。せめて県民も使う本館正面１階のトイレくらいきれいにしてはどうだろうか。

○　次には是非，食堂もお願いしたい。

○　職場環境を良くするのも，給与にメリハリをつけるのも賛成だが，職場環境が良くなって，給与が高いと居心地が良くなる。働かない人がぶら下がらないような仕組みにしないと。

○　人事評価をしっかりやるのが大前提。今後の人事を考えると定年延長の問題が出てくる。単純に言うと年齢の高い職員が増えてくる中で定数削減をしていくのでかなり厳しい。中途採用の余裕があれば新規採用にまわしていきたいくらいだが，再任用に対応可能な人事システムを作っていくのが必要。

職場を良くすることについては同感だが，やり過ぎると無用な誤解を生みやすい。庁舎の建て替えと合わせて出来るときはやりやすいがそうでなければ難しい。

国のワークプレイス研究会で民間の方から，「環境を良くするのも良いが，目標管理でしっかり人事評価するベースがないといけない」との意見があった。ある程度の環境整備は必要だが，目標管理で捕捉してしっかりと仕事をしていく体制を作っていくことが大事。

広島県は日本の縮図。広島を良くすると日本全体が再生する鍵があるということが全国には響いていない。全国に響かないと地元にも響かない。これまでの政策は変なパフォーマンスが無く，地道な政策を地道にやってきた。これからは成果を全国にアピールできる仕掛けが必要ではないか。

○　これまで４年間やってきたので，資料も洗練されてきている。そつなくやっていくならこんな感じではないか。二期目ということで，具体的な成果を求められるというところだろう。

Ｐ１４のグローバル人材の育成と大学教育は，一番成果が出やすいし，県民も求めているものであり，重点的にやっていくのが現実的だと感じている。ただ，東京都もバカロレアを入れようとしているなど，いろんな県がやろうとしており，本気でやるならスピード勝負になるのは間違いない。教員も専門家・アドバイザーも学生も取り合いになるだろう。そこで，もっと予算と人員を重点的に配置した方が良いのではないか。教育委員会の人とも話をしたが，グローバルリーダー育成型の学校を設立するなら，スタッフは足りないだろう。もっと予算も人員も重点配分してメリハリを付けて徹底的にやってはどうか。実際に動くのは教育委員会だと思うので，ケースバイケースでミーティングをやるより，月２回など定期的に進捗状況を報告してもらうとか，スピード勝負に対応できるような体制をつくるべき。グローバル人材の育成と大学教育にこだわって，後はそつなくきちんと進める。

資料はこれで良いので，後はどう成果を出していくかというところが勝負だと思う。

○　実際のＤｏのところは留意しながらやっていきたい。

いくつかいただいた意見の中で課題だと思うのは起業支援。メニューをいくつか出してやってい

るが，それで十分なのかどうかはレビューが必要だろう。タイミング的には予算作業が詰まっていくのはこれからなのでそこに向けて考えていけるかどうか。
　ファミリー・フレンドリーの位置づけについては，運営上のダイナミクスもあって，この中に突っ込まないと予算をとれないという意識もある。少し考えたい。

○　Ｐ１０の都市の魅力は内容が具体的でない。これを他県に置き換えても同じになってしまう。要は何をやるのかが決まっているのか。跡地利用とか都市計画の話があるのかもしれないが，それよりもっとビッグピクチャーとして，広島市をどんな都市にしたいのかというのが先にあって，一つの制約条件として広島市や大学との関係，あるいは利用できるアドバンテージとして跡地があると考えるべきではないのか。

○　ビッグピクチャーは弱い。広島市に働きかけても，「広島市には計画はあるから」と言われてしまう。ここで言っているのは跡地というわけでもない。一つには平和公園周辺は，公園だけが独立して存在していて，周辺の繁華街と結びついていないという課題がある。平和公園の外側がアンフレンドリーだから，そこを変えようということで２年くらい話しているが，なかなか抵抗感があったりして，来年度やっと一緒にという合意ができたところ。
　もう一つは，公共建築物を建てる中で，もう少し建物価値，デザイン性に着目した整備をしようということで，広島型プロポーザル方式を導入し，合わせて民間建物にも波及させていこうという取組を考えている。

○　来年度の地財対策は，空き家がものすごい数で増えているので，県としては良い戦略ではないか。

○　都市に金を付けていくというのは気になるが，県がどういう役割を果たすのか。広島市の土地区画整理事業もこれまで半分くらいは県もやってきたのだから，少しくらいは出しゃばってやっていくのも戦略ではないか。現段階では抽象的だが，今後，踏み越えて具体的な成果がでるようにして努力して欲しい。

○　起業支援ということで，今の時点で何かとんがったものは考えているのか。例えば，先程話に出た尾道に引っ張ってくる起業支援は，既存の枠組みには入らないのか。

○　市町のそういったことに対する取り組みを一緒に支援するという新たな制度を作ろうとしている。今やっている創業支援のメニューは，一緒にビジネスを考えアドバイスしながら事業プランを作るという「ブートキャンプ」と金融機関やコンサルタントの協力で具体的な事業化を支援する「パッケージ型支援」があり，来年度は予算を増やして拡大していこうとしている。それから，技術力を持った中小企業等が資金援助を必要とするときにその技術力の評価調書というのを県が作っている。基本的には今年度新たに取り組んだことを来年度も継続する。

○　起業の際のコンサルティング支援の人材はどこからくるのか。広島の人かUターンした人材か。

○　税理士や中小企業診断士。最大２年間そばにいて，創業してから軌道に乗るまでをアドバイスする仕組み。支援する人はローカルの人を考えている。

○　そういう支援者にUターンの人を活用すれば，一石二鳥で良いのではないか。

○　この場で以前議論いただいた核になる人を連れてきて，その人の魅力で雪だるま式に人材集積を拡大していこうという取組を考えている。

○　３テーマくらいのプロジェクトに核になる人材を連れてきて，その人についてプロジェクトに取

り組む参加者を県内外から集める。２年間の間にコンテストを行い，事業化に結び付くようなものに県も資金支援する。そこから起業につなげ，さらに人が付いていくという雪だるま式に人が人を呼ぶというような取組を考えている。

○　是非，県の職員も参加したら良いと思う。

○　それでは，時間ですので本日の会議を終了する。２年間の会議は本日で終了だが，引き続き広島県政を宜しくお願いします。